



杉山裕信氏

誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会
条例の会仙台代表 CIL たすけっと代表
1993年に“障害者が障害者の自立支援を行う”CIL（自立生活センター）
の存在を知り共感。1995年に『CIL たすけっと』を発足。権利擁護活動
を基本とし、障害者の自立生活をサポートする活動を行う。2009年10
月に誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会を発足。

協力者と一緒に色々な案を反映させる活動をしていきたい！

CIL たすけっとは事務所のある長町地域で地元の方と関わりながら様々な活動をしています。
長町でタウンモビリティ

商店街と協働して歩行の困難な方への電動スクーターの無料貸し出し事業を行っています。

町に出て色んな人と関わっていきこう

触れ合っていくことで理解を進めようと、地元の中学生にインターンシップや出前講座等を行
っています。イベントや街頭では、電動車イスの必要性をアピールしたりしています。

じゃぶじゃぶ池の設置(安全施設配置計画)

広瀬川の河川敷に、車イスでも川に触れられる広場が作られました。設置のための計画に私
も参加し、意見も取り入れられ作られました。

創作劇「わかまち ながまち 愛のまち」公演への参加

街づくりを盛り上げていこうと、創作劇の公演にも出演するなど、地元の方々と協力し合っています。



これまでの体験から私が感じた理解と配慮は、「見える化、視覚化を進めていくこと」だと思います。

発達障害を持つ私は主にあいまいなところの判断や暗黙の了解事項の理解を苦手としています。「工夫
して」などの指示は抽象的でイメージしにくいので、具体的な作り方や見本を示してもらえれば理解しや
すいのです。私たちが分かりやすいことは全ての人にとっても分かりやすいのではないのでしょうか。

「会話が成り立ち話が出る＝普通に何でも出来る」という誤解が私達にとって障害となっています。
障害に関する差別を解消するためには、一人一人がそれぞれの違いを認め、理解し、支援して下さるこ
とが必要です。私達、高機能自閉症当事者の会（青年の会）は、一人でも多くの理解者、支援者を増やし
ていくために自分達の経験談から、このように理解し支援してもらおうと生きやすい社会になるというこ
を提案してきました。

本当の理解の意味での理解にはまだまだ時間が必要であると感じています。理解してもらうために、私
達も何もしないで待っているだけではなく、よき理解者と共に自分達の出来る範囲でこれからも理解に向
けた活動をしていきたいと感じています。

ハード面の整備
だけではなく、ハード面
の整備も大切！！

高機能自閉症当事者活動
「青年の会」

「青年の会」は、成人期の発達障害の方々が「発達障害のある人たちがもっと暮らしや
すく生きやすくなって欲しい」と理解啓発を推進したいとの思いから活動を行っている。
発達相談支援センター（アーチル）を事務局に、毎月定例会を行いながら、様々な
研修等の場で、当事者としての経験や思いを発信している。



志賀律保氏

シンポジウムレポート

障害を理由とする差別の解消について考えるシンポジウムを開催しました

障害を理由とする差別の解消を推進するための条例制定に向け、差別の解消に対する関心を高め、幅広い理
解を得ながら進めていけるように、広く市民の方々が参加できるシンポジウムを開催しました。

「雇用や地域活動等における実践を通して差別解消について考える」をテーマに仙台市障害者施策推進協
議会会長の阿部一彦氏の講演、6名のパネリストによるパネルディスカッションを行いました。パネリストそれ
ぞれの立場で雇用現場や地域で取り組んでいる実践や事例等についてご報告いただきました。

日時・場所 平成26年12月7日（日曜）15時から仙台市福祉プラザにて

コーディネーター・パネリスト

講師・コーディネーター

阿部 一彦 氏（仙台市障害者施策推進協議会長）

パネリスト

大橋 恵子 氏（株式会社高島屋横浜店販売支援担係長）

伊藤 清市 氏（仙台バリアフリーツアースセンター代表）

小岩 孝子 氏（仙台市東四郎丸児童館館長）

佐々木 晃 氏（障害者相談支援事業所ほっとすペース支援係長）

杉山 裕信 氏（誰もが暮らしやすいまちづくりをすすめる仙台連絡協議会）

志賀 律保 氏（アーチル青年の会）



講演内容（抜粋）



阿部一彦氏：東北福祉大学教授、仙台市障害者
施策推進協議会会長、社会福祉法人仙台市障害者福
祉協会会長、日本身体障害者団体連合会副会長、内
閣府障害者政策委員会委員、厚生労働省労働政策審
議会障害者雇用分化会委員等を歴任

平成21年12月から国連の障害者の権利に関する条約
の締結に必要な国内法の整備をはじめとする制度の集中
的な改革が始まりました。しかし、国の施策があったと
しても、地域レベルの活動があってこそ私達の暮らしに
影響します。差別解消法についてもその内容をよく浸透
させるために私達の地域らしい条例を作っていくことが
大切です。障害理解の促進のためには、地域団体も含め
地域の様々な人達との関わりが大事だと思います。障害
のある市民と障害のない市民とのつながり、支え合いを
大事にしていけたらと思っています。

条例を作る過程を大切にしながら、できあがった条例
を十分に活用した仙台づくりに取り組み、みんなで互いに
巻き込み、巻き込まれて、「相互理解と連携のみんなのため
のまちづくり」をしていきましょう。

パネルディスカッション（抜粋）

㈱高島屋横浜店販売支援担当係長

21年間の教員生活の後、指導員を経て2006年株式会社高島屋に就職。総務部ワーキングチームのジョブコーチとして、障害のある社員の指導や社内における職域開拓、生活面や通勤などの相談に応じ、職員が安定して働き続ける為の支援に携わっている。



大橋恵子氏

福祉の世界から、雇用の世界にどんどん来てもらえるような社会を！



私はジョブコーチということで、ジョブコーチ目線で、『合理的配慮』『差別を解消する』のテーマに対して、私の実践の中で皆さんにお伝えしたい3つのポイントをご紹介します。

雇用側として障害のある方々には勇気を持って社会に出ていただいて社会を支えていく側に立っていただければと思います。

1.自己選択・自己決定

私のチームではこちらから仕事ををお願いすることはありません。翌日の仕事を300の札の中から自分で選びます。自分がやりたい、チームにとって会社にとって一番大切だと思う仕事を選び、責任をもってやります。（上部写真参照）

2.キャリアアップ

年に2回ほど研修を行っています。出来るだけ他社へ行って自分の力を試そうというような試みもしています。その他、就業体験、講演活動も行っています。

3.豊かな人生を応援

余暇活動やグループホームの生活を推奨しています。



仙台バリアフリーセンターと『とっておきの音楽祭』のご紹介をします。

仙台バリアフリーセンターの紹介

センターでは次の3つの仕事をしています。

- 1.バリアフリー旅行についての相談業務 2.管轄している地域のバリアフリー調査 3.他団体との送受客連携事業

全国18都道府県の団体のネットワークで成り立つ機構の一員として、情報交換をしながら旅のサポートをしています。バリアフリー調査で得た宿泊施設や観光施設等の細かい情報についてホームページ等で紹介することも行っています。

とっておきの音楽祭

障害のある人もない人も一緒に音楽を楽しみ、音楽のチカラで心のバリアフリーを目指す音楽祭です。次回は15回目の開催となります。様々な支援をしてくださる方や、商店街や色々な事業所の方のご協力で成り立っています。今では、開催への期待や商店街の方から休憩所の提供を申し出ただけになりました。地道に活動してきた成果かと思えます。

仙台が好きだから 仙台をもっといい街にしたいと 色々な活動をしています。

仙台バリアフリーツアーセンター代表

NPO法人ゆにふりみやぎ理事長、東北学院大学経済学部非常勤講師、社会福祉士、精神保健福祉士、とっておきの音楽祭 SENDAI 実行委員長。高齢者や障害者の方が安心して楽しんで旅行ができるよう相談やあっせんを行ってサポートするとともに、宮城、仙台のバリアフリー情報を発信する仙台バリアフリーツアーセンターを設立。



伊藤清市氏

仙台市東四郎丸児童館館長

NPO法人FORYOUにここの家代表理事、ほっとネット in 東中田代表、市民協働による地域防災推進実行委員会代表。地域の様々な団体と連携しながら、子どもや高齢者、障害を持つ方など、地域の人たちが気軽に集えて交流し、支え合える場づくり等を行っている。『みんなで手をつなごう』『みんなで支え合おう』をスローガンに地域福祉に取り組む。



小岩孝子氏

障害のある人たちが外へ出ていけるような、私達も受け入れられるようなまちづくりを！



私達の地域で行っている活動についてご紹介します。

ほっとネット in 東中田

子どもも大人もお年よりも、病気や障害を持っていても、すべての人が安心して生活できる東中田を目指して地域の19団体がネットワークを組んでいます。地域にある様々な施設等を紹介する『助っ人マップ』を作り地域に発信したり色々な講演会を開催したりしています

つながって子育て支援

児童館の応援隊として20団体とネットワークを組んだり、小学校や専門機関と連携しています。

東中田子育て支援ネットワーク

東中田にある3つの児童館と東中田保健センターとが連携して地域の子育てを支援しています。障害のある子どもないもみんな集まれる『東中田の杜の子まつり』というイベントも毎年行っています。

めろんの会

障害のある子どもや育てにくい子どもをもつお母さん達の集まりです。情報交換会や相談会、講和等を開く活動を行ったり、子供達が地域の中でいつまでも暮らしていける活動をしています。



ほっとすぺーすは障害をお持ちの方々の色々な生活上の困りごとについてのご相談と一緒に解決したり、今抱えている不安な事の整理をお手伝いするなどの相談支援を行っています。その中で、それぞれの障害の特性を含めた理解を進めていくという事がすごく大事だと感じた2事例についてご紹介します。

障害名などの事前の情報だけで、感情的な所の色眼鏡で見ないで、実際に会ってほしいです。

【事例1】アパート探しの中での体験

アパート探しでは、障害があるというだけで、物件を貸していただけないこともあります。障害当事者と一緒に、ある不動産屋さんに行ったときに、診断名や症状をお伝えしたり、ご本人とお話ししたりして「あなたなら貸しますよ」と言ってもらえました。

【事例2】バザーを通じた地域の方々との関わり

事業所のバザーの品物を利用者さんと一緒にもらいに行ったときに「誰が障害者の人か分からないわね」と言われました。直接会ってお話することで、精神障害者の方のイメージが随分変わるようです。

障害あるなしに関わらず、誰もが住みやすい 地域を作っていくことが大事！

障害者相談支援事業所ほっとすぺーす支援係長

社会福祉法人緑仙会障害者相談支援事業所ほっとすぺーす相談支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士。その人らしさを活かすことを大切に考え、独自の技術力・ネットワーク力を生かした協力的なバックアップ体制で利用者の自立をサポートできるよう日々の相談にあたる。



佐々木晃氏